



六花

令和6年1月24日
新潟市立新関小学校 学校だより 第7号
〒956-0825 新潟市秋葉区下新766
TEL: 0250-22-0995 FAX: 0250-22-6529
題字: 中村 白香

「一挨拶一拶」 子どもに身に付けてほしいあいさつを考える

校長 石塚 智久

1月1日(月)に発生した能登半島地震で被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。東日本大震災からはや13年。子どもたちは毎年の訓練で、地震や防災について知識として知ってはいましたが、自分の身に迫る危機として実感したのは、今回の地震がほぼ初めての経験だったのではないかと思います。改めて、自分事として災害に備える大切さを考えさせられる、令和6年の幕開けとなりました。

激しい揺れや、その後の報道で繰り返される映像などから、少なからずどの子どもも不安な思いを抱えていると思います。この度の震災に関わって、お子さんの話をよく聞き、また様子をよくご覧いただき、発災前と明らかに様子が異なったり、不安や不調を訴えたりするなど、心配なことがありましたら、遠慮なく学校へお知らせください。学校はいつもにも増して子どもの様子をよく見取り、心に寄り添うかわりを大切にしていきます。

今月の生活のめあては、「心をこめた気持ちのよいあいさつをしよう」です。委員会や各学年の取組で、めあてが達成し、あいさつを当たり前の習慣として身に付けられるように、良いあいさつをしている友達を校内放送で紹介したり、各教室を回ってあいさつを呼びかけたりする活動が行われています。新関小学校では、子どもに身に付けてほしい基本的な(最低限の)習慣を5つに絞り、「新関小学校のスタンダード」として、年間を通して指導しています。中でも「笑顔で気持ちのよいあいさつや返事をする」は、5つのスタンダードの筆頭に位置付け、最重点の課題として取り組んでいます。今年度の新潟市生活・学習意識調査結果では、新関小の子どもたちは「地域の大人とあいさつをしたり、言葉を交わしたりしていますか。」との問いに、69%が「あてはまる」24.1%が「ややあてはまる」と回答しており、新潟市平均よりも高い割合を示しています。これまでの家庭や地域での働きかけと、「新関小のスタンダード」の指導との積み重ねが、数値に表れていると考えます。

そもそも「挨拶」は、禅の「一挨拶一拶(いちあい いっさつ)」という言葉が語源です。「挨拶」には「おす、開く、近づく」という意味が、「拶」には「せまる」という意味があります。「一挨拶一拶」は、年長者である師匠が問答を迫り弟子が答えることを繰り返す様子を表しており、やがて修行するお坊さん同士が相手に近付き声をかけ、問答を通して互いの悟りの深さを測り合うことを言うようになったそうです。そこから転じて、今のように親愛の情や礼儀を込めて言葉を交わし合う様子を「挨拶(あいさつ)」というのだそうです。相手に対して言葉をかけ、その受け答えで相手を推し量ることがそもそもの挨拶であるとしたら、例えばその言葉かけが不機嫌な、厳しい口調であったなら、受け手もきっと同じように、厳しい口調で返すでしょう。また、相手を見もせず機械的な言葉を発しただけならば、受け手も同じように、相手も見ず、心のこもっていない言葉だけが行き交うことでしょう。「一挨拶一拶」、良いも悪いも声のかけ方一つで受け手の反応は変わります。また、受け手の返し方で、その心情や気持ちを推し量ることができます。

現在の私たちにとってのあいさつは、互いに心を開き、近づくためのコミュニケーションの基本です。「新関小のスタンダード」では、よいあいさつのポイントとして「相手を見て」「自分から」「笑顔で」の三つの観点で指導しています。「大きな声で」「元気よく」よりも、自分と相手との豊かなかわりを築くために、お互いに心地よいあいさつを交わすことを大切にしたいとの思いからです。(もちろん「大きな声で」「元気よく」もよいあいさつの要素ですが、声の大きさがすべてではないでしょう。)これからも家庭、地域、学校で、それぞれのかかわりに応じたあいさつを交わし合い、人間関係の潤滑油となるようなあいさつを、子どもたちに身に付けてほしいと願います。



朝のあいさつ運動に取り組む委員会の子どもたち

令和6年のめあて 「今年の一文字」に込めた思い

今年も冬休みの課題で、一年のめあてを漢字一文字で表す「今年の一文字」を、全校の子どもたちが考えました。どの子の一文字も、その字を選んだ理由がしっかりあります。真剣に考え、今年自分が何を目指そうとしているのかが分かります。辰年は「時代が大きく動く年、努力が実り夢がかないやすい年」と言われています。それぞれのめあてに向かって、着実に努力を重ね、実現する年になることを祈っています。

<h1>手</h1>	<p>1年生 Fさん ことしは2年生になるので、じゅぎょう中たくさん手をあげて、はっぴょうできるようにになりたいからです。</p>	<h1>考</h1>	<p>2年生 Tさん 考えて、べんきょうをがんばりたいからです。とくに、算数をがんばりたいです。</p>
<h1>伝</h1>	<p>3年生 Sさん 家族がたいへんそうだったら「手伝うよ」と伝えて、お手伝いをする1年にしたい。</p>	<h1>動</h1>	<p>4年生 Mさん スポーツでは体を動かし、勉強では頭を動かし、生活では心を動かす。</p>
<h1>目</h1>	<p>5年生 Sさん 常に目標を作り、それを目指し続けて成長したい。そしてしっかり目を見てしっかりと話せるようになりたい。</p>	<h1>進</h1>	<p>6年生 Sさん いろんなことに挑戦して、前向きに進んで行きたいです。中学校の勉強にも、進んで取り組みたいです。</p>
<h1>展</h1>	<p style="text-align: right;">校長 石塚 智久</p> <p>昨年の一文字は「伝」でした。創立150周年を受けて、伝統を受け継ぐ思いを込めたからです。今年は、受け継いだ伝統をどうしていくかが問われています。そこで、未来に向かって新関小を発展させようという思いを込めて「展」を選びました。展は「ひろげる」とも読み、「どこまでものび広がる、隅々まで見る」などの意味があります。展望をもち、新関小の発展、進進を目指して教育活動を展開します。変わらぬご支援をお願いいたします！</p>		

大谷選手から贈られたグローブが届きました

メジャーリーガーの大谷翔平選手からの贈り物のグローブが、新関小学校にも届きました。大きく報道されていたので、子どもたちも心待ちにしていました。全校集会で、同封されていた大谷選手からの手紙を読み上げ、6年生の代表へ手渡しました。このグローブを通して、野球だけに限らず、自分の好きなこと、がんばりたいことを見つけて挑戦する希望を感じてもらいたいと思います。このグローブは、天候が良くなり外でキャッチボールなどの遊びができるようになったら、子どもたちが実際に使えるように準備を整えます。それまでは、学級で直に触り、手を入れて、大谷選手の想いを感じる時間としたいと思います。せつかくの贈り物ですので、2月8日(木)の授業参観日は皆様の目に触れるところに展示します。興味のある方は、どうぞご覧ください。



お知らせ

★ 新しい職員が着任しました

養護教諭が産休・育休を取得することに伴って、1月10日より新たに養護助教諭が着任しました。お子さんの健康や衛生面等で心配なことがありましたら、お気軽に保健室にご相談ください。

養護助教諭 着任のごあいさつ

1月からお世話になっています。明るく素直で一生懸命。そして優しい58名の児童のみなさんと、縁あって出会えたことに、毎日幸せを感じています。

どうぞ、よろしくお祈りいたします。

★ 2月8日学習参観日の「つるし雛飾りづくり」にご協力をお願いします

1月18日付の文書でお知らせしたとおり、学習参観日の授業終了後に、親子でつるし雛飾りづくりの時間を設けました。子どもたちが地域の方と作った飾りに糸を通す作業を、子どもと、授業参観においていただいた皆様とで一緒に行います。

新関小学校は地域協働を教育活動の核としています。多くの人とかかわりながら地域の活動に参加する機会としたいと思います。日程をご確認いただき、お子さんと一緒に楽しみながらご参加いただければ幸いです。学年懇談会は、飾りづくりの活動が終了後に行います。

完成した飾りは2月18日から新関コミセンで展示されます。ご理解とご協力をお願いいたします。

